

4 経済圏モデルによる日本経済予測分析： プロジェクションモデル・アプローチ

中澤正彦¹ 小寺剛² 清水玄彦³ 石川大輔⁴ 高村誠⁵

中国など新興国の急速な経済発展や世界金融危機が日本経済に大きな変動をもたらしたことを踏まえ、本論文では、日本経済の分析や予測のためのツールとして、日本経済とともに日本経済を取り巻く主要な経済圏(米国、ユーロ圏、中国)を明示的に含めた動学的確率的一般均衡モデルに基づくプロジェクションモデルを構築する。その上で、4 経済圏の金融政策や需要ショックなどの効果や、歴史的分解などにより、2000 年年代の経済の変動を分析する。

IMF では、短期の世界経済予測などを目的として、Global Projection モデル (GPM) と呼ばれるプロジェクションモデルを発展させており、一部の中央銀行においても予測モデルとして活用されている⁶。このプロジェクションモデルでは、経済主体の最適化行動を明示的にモデル化するのではなく、通常の DSGE モデルにおいて最適化行動の結果として導出されるいくつかの基本的な方程式(ニューケインジアンタイプの IS 曲線やフィリップス曲線)を経済の行動方程式として与え、そのシステム全体をベイズ推定するという手法がとられる。このアプローチには、1 国の経済が 4、5 本の線形の行動方程式で表されるため、モデルの取り扱いや拡張性に優れるという利点がある。

そこで、本論文では、日本、米国、ユーロ圏、中国の 4 経済圏からなるプロジェクションモデルを構築し、日本経済の分析を試みる。本稿と先行研究の最も大きな差異は、4 経済圏の経済パラメーターを一括してベイズ推定している点にある。

JEL Classification: F47, E47, C51,

¹ 京都大学経済研究所先端政策分析研究センター准教授

² 京都大学経済研究所先端政策分析研究センター研究員

³ 財務省財務総合政策研究所研究官

⁴ 財務省財務総合政策研究所主任研究官

⁵ 財務省財務総合政策研究所研究部

⁶ Carabenciov et al. (2008a), Carabenciov et al. (2008b), Carabenciov et al. (2008c), Bailliu and Blagrove (2010), Bailliu et al. (2010)などを参照。